



ありがとう、ロータリアン！ ②1

21 世紀のシルクロードをつなぐ



一般財団法人ウズベキスタン文化・
芸術フォーラム基金 代表理事
パヒリディノフ マンスール マルフオビーチさん

出身：ウズベキスタン

奨学期間：2004 - 06

学校名：慶應義塾大学大学院

世話クラブ：東京恵比寿 R C

日本との知られざるつながり

皆さんはウズベキスタンにどんなイメージをお持ちですか。「日本とはなじみが薄いのでよくわからない」という方も多いかもしれませんが、とんでもありません！

ウズベキスタンが日本と正式な外交関係を結んだのは旧ソビエト連邦から独立した後ですが、実ははるか昔からシルクロードによってつながっており、ウズベクの商人が奈良まで来ていたそうです。

日本はウズベキスタン独立後、経済・教育分野などで全面的にサポートしてくれました。ウズベク人の日本に対する関心は高く、礼儀正しい国民性や家に入るときに靴を脱ぐ習慣など、日本との共通点も数多くあります。日本語学習者数も中央アジアでは断トツです。そして、非常に親日的です。

第二次世界大戦後、シベリアの日本人抑留者のうち約 2 万 5,000 人がウズベキスタンへ送られ、施設の建築やインフラ整備に携わりました。そのうちのひとつ、ナヴォイ劇場が二度の大地震にも倒壊しなかった、というエピソードは有名です。とても複雑な時代だったにもかかわらず、当時の方々が日本に帰国した後、ウズベキスタンとの最初の友好協会を福島県につくってくださったことに、僕は感動を覚えました。ウズベキスタン政府も、13 か所にわたる日本人墓地を整備し、友好の証しとして維持管理に努めています。

カッコイイ国、日本

僕はウズベキスタンの首都、タシケントで生まれました。スポーツ少年で、特にレスリングが得意でした。無類の読書好きで、日本に関する本も多く読み、能や歌舞伎などのユニークな文化、武道の精神に憧れを募らせた。日本文学も大好きで、自分でも俳句を詠むほどです。そして、国内初の日本語学科が設立されたばかりの、タシケント国立東洋学大学に進学しました。

ウズベキスタンの若者にとって、日本は「カッコイイ国」です。歴史や経済を学ぶため、現在、年間約 200 人が日本へ留学しています。僕は国費留学生として、1998 年に来日しました。慣れない生活環境での苦労はありましたが、来日後に通い始めた空手道場の仲間をはじめ、日本人の温かい心を常に感じていました。

慶應義塾大学大学院の修士課程、博士課程へと進み、米山奨学生となりました。世話クラブは東京恵比寿ロータリークラブ（R C）で、現在に至るまで常に影響を受けています。ロータリアンには企業の代表者など、サクセスモデルをつくった方が多くいます。そういう方々と話すだけで刺激になりますし、積極的に世界各国を訪問し、現地のロータリークラブとのネットワークをつくっていることも、非常に重要だと感じさせられます。



ウズベキスタンと日本の協力推進のための交流事業

中央アジア最大の人口を有するウズベキスタン共和国。かつてシルクロードのオアシスとして栄えたこの国から、大志を抱いて来日したバヒリディノフ マンスール マルフォビーチさんは、日本とウズベキスタンとの友好的な過去の歴史だけでなく、これからの絆をもっと深めたいと、文化や経済を中心とするさまざまな交流プロジェクトを推進し、今まさに自らが、両国を結ぶシルクロードのような存在となって活躍しています。

両国の絆を深めるために

2005年12月、ウズベキスタン外務省職員に採用され、東京都にある大使館の文化担当官となりました。

また、母国に設立された社会団体「ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金」の駐日代表部代表理事も兼任し、両国の交流を推進していく役割を拝命しました。

具体的には、両国で互いの映画作品を紹介する国際映画祭、日本のデザイナーやモデルを招いてのファッションウィーク、日本企業とウズベキスタン関係省庁による経済協力の構築、大学や政府機関による学術交流などを行っています。これらは東京都だけでなく、全国で実施しており、今年は九州や沖縄、北海道などでも開催予定です。日本は2020年のオリンピック開催地に決定しましたので、今後はスポーツ交流にも力を入れていきたいと考えています。

今、日本政府は海外へ向けて「クールジャパン」戦略を進めています。われわれも中央アジアで「クールジャパン」を積極的に紹介するとともに、日本語能力や日本文化を理解する人材を増やしたいと思っています。

僕が比較的大きなプロジェクトの一員として関わることができているのは、日本で教育を受け、米山奨学生となったおかげです。これからも、僕が心から愛する日本とウズベキスタンとの関係が21世紀のシルクロードで

つながり、より深く、より緊密になるよう頑張ります。ロータリアンの皆さんにウズベキスタンを好きになってもらい、ウズベキスタンの可能性をもっともっと知ってもらうために、この道を真っすぐに進んでいきます。



東京恵比寿RC
司 葉子氏から一言

私と親交のある中山恭子さんが、かつて駐ウズベキスタン共和国特命全権大使をなさっていたことから、ウズベキスタンを身近に感じていました。そんな時に、マンスール君がうちのクラブにやってきました。彼は頭が良く、好青年で、必ず将来、ウズベキスタンの要職につくような人物だと感じました。クラブの皆さんにも大切に迎えようとお願ひしたことを覚えています。久しぶりにお会いして、現在のご活躍を伺い、私の直感は正しかったと思いました。今後の彼の活躍に期待しています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

山形から世界へ！ 第2800地区米山学友会が「多文化交流コンサート」を開催



南京玉すだれを披露する山形大学留学生ら

第2800地区（山形県）米山学友会は1月12日に山形市で、今年で4回目となる「多文化交流コンサート」を主催しました。毎年楽しみに訪れる市民のほか、ロータリアンも多数応援に駆けつけ、テレビ局の取材も入る盛況の中、山形大学の留学生とそのOBらが日本の伝統芸能に挑戦したり、母国の歌や演奏を披露して会場を沸かせ、米山奨学生・学友もスタッフとして奮闘しました。同学友会会長で、今回の実行委員長、さらには「よねやま親善大使」でもある尤銘煌さん（2003-04 / 津島RC）は「このような文化交流を通じ、少しでも国際親善・理解、そして世界平和につなげていけたらと思います」と、成功の喜びを語りました。